

「自分が消えても残るもの」

お酒が好きな人たちの間では、「この一杯のために、今日も働いてきた」という名言というか、決め台詞というか。晩酌する時、飲み干した後の一言ですね。先日も、ある働き者のお父さんから、この言葉を聞きました。とても美味しそうにお酒を飲まれる方でした。私もお酒を嗜む側の人間ではありますが、正直、そこまでお酒に対する愛を告白することはありません。ただ、何であれ、生きる目的を持っているのは悪いことではないと思います。

実存主義哲学を展開したサルトルさん曰く「実存は本質に先立つ」とのこと。本質とは、意味や価値、目的のことです。実存とは、いまを生きている私たちのことで、現実存在とも言います。「実存は本質に先立つ」とは、要するに、私たち人間は、本質である所の意味や価値、目的を与えられるよりも前に、現実を生きる存在として生まれてきてしまっている、と。これは、突き詰めて考えると、なかなか厳しいお話で、私たちは生きながら「自分は何のために生きているのか」を考えなければならない、ということです。

もちろん、「死ぬのは怖いから生きている」という消極的な生きる意味もあるでしょう。最終的には、その恐怖によって命を保つ瞬間もあるかも知れません。しかし、常日頃、私たちが充実した人生を送る上では、やっぱり生きる意味、目的、命を費やすだけの価値を見つけることは、とても大事なことです。なので、私は先ほども言いましたが、「この一杯のために、今日も働いてきた」とは侮ることのできない言葉です。何であれ、生きる目的、汗水を垂らす価値を、この人は、この人なりに見つけて、一生懸命に生きている。それは、なんら意味も価値も目的も見出さずに、ただ生きるだけの人生に比べたら、喜びと楽しみのある命の使い方と言えます。

という、そんなお酒が好きという水準のお話で構いません。皆様は、自分の生きる意味をお持ちでしょうか。このために生きている。これをしたくて頑張っている。きっと何らかの意味や価値や目的を持って、皆様も1週間を走り終え、ここに今日お集まりのことと思います。キリスト者の良いところは、信仰を持つことで生きる意味を与えられていることです。どんなにか悪人だったとしても、神様を信じ、イエス様を受け入れることで、罪を許され、その命に役割を帯びるようになる。実際に、そのような信仰経験を経て、悔い改め、恵みに感謝して生きた人たちもいました。自分を超えた方を信じることによって、私たちは生きる意味を学び、生きる目的を見出し、有意義な人生を歩むことができる。これも信仰者のありがたい一側面であると言えます。そして、その有意義な人生とは、自分の命が取り去れることによって終わるのではなく、自分が消えていなくなった後も、信仰の継承という形で、教会の存続という在り方で、その先もずっと続いていく。事実、そうした信仰者たちの人生が、重なり、繋ぎ合わされ、織り成され、今日の敦賀教会と敦賀教会幼稚園は存在しています。私たちの信仰は、私たちの人生を超えて続いていく。このことを、まずは私たち喜んでいたいし、誇っていたいと思います。

神様は、私たちにとっても大きな働きを期待されています。それは、私という一個の人間の一生を費やしても、とても成し遂げられるものではありません。「呼びかける声がある。主のために、荒れ野に道を備え、わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ」と、今日の聖書箇所は語り出します。これは決して、文字通り道路を作れとのお達しではなく、信仰がなかなか行き届かない、この社会に、神様の御声が行き渡る道筋を整えよ、ということです。この大きな働きの一つの段階として、ここに教会が建ち、幼稚園が建ち、私たちの力強い足場となっています。私たちは、ここを拠点としてさらに主の道を延ばし、少しでも広く神様の御言葉を宣べ伝えていきます。それが、ある意味で、私たちの大いなる生きる意味であり、私たちが日々を無為に過ごすの

ではなく、主のために命を燃やす価値ある営みです。「主のために」と言うと、まるで私たちの存在が軽んじられているようにも聴こえてしまいますが、でも、そんな難しいことを思わずとも、単純に嬉しいじゃないですか。教会に沢山の人が来てくれること、幼稚園のたくさん子ども達の声が響くこと。それは神様の御心であると同時に、私たちが常に願ってやまない理想的な未来です。神様に愛されている自分を大切にしつつ、今日を丁寧に生きて、望ましい明日のために主の肢として、平和の使者として歩いてゆく。たとえ、その目指すべき場所に、すぐに到達できなくても、それどころか命尽きるまでにゴールすることができなくても。永遠を生きる神様が、私の働きを次に繋いでくださると信じて、私たちは一人では絶対に成し遂げられない大きな働きにも取り組むことができます。

即座の成果、今この時だけの利益を追い求めがちな地上的な価値観も、それはそれで尊重しつつ。でも、それだけじゃない大切なこと。どうやったら考えの違う者同士が平和に暮らすことができるのか。争いを止めるには何をどう変えたら良いのか。目まぐるしく変化する社会にあって子ども達にどんな声を掛け、未来に向けて希望を見出してもらえれば良いのか。そんなことを考え、祈り、追い求めるのも、私たち信仰者の大切な働きですよね。大真面目に将来の平和を語ること。人はどう生きるべきかを考えること。

たとえ私たちは草に等しくても、いつか枯れて、しぼんでしまうとしても。でも、私たちを生かす神様がいてくださり、その御言葉がある限り、どうか前を向いて、未来を思い描いて、今日を生きていきたいと思うのです。信仰を持つ一人として、「自分が消えても残るもの」が確かにあるのだと信じて、今日から始まる、なんてことはない1日1日を大切に歩いて参りましょう。

結局、そういうなんてことはない1日1日の積み重ねが、平和を創り出しもするし、戦争に至る道をも作るわけですね。だから、どれだけ想像力をもって未来を思い描くことができるの

か、明日への期待を忘れずに今日の姿勢を正すことができるのか。そういう小さく変化の見えない日々の取り組みに真面目になれるのか、というのが重要なんじゃないかと思います。今の世界情勢を見ると、平和を願うこと、祈ることの虚しさばかりが目立つかも知れません。でも、こういう御時世だからこそ、「それでもね」って言いながら、「やっぱり戦争って良くないよ」という楽観論を語る存在は貴重です。

平和ではない、この世界。課題山積の、この社会。その中を生きる小さくて弱い私たち。でも、考えて行きましょう。「自分が消えても残るもの」があるはずだと。「わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」と信じられる立場から、キリスト者として祈りつつ生きる意味と価値をしつかりと心に留めて行きましょう。未来の世代に少しでも良い世界を繋いでいけるように、背筋を伸ばし、祈る手に力を込めて、ですね。ご一緒に主の道を整える、みんなが幸せに平和に生きていくために、そのために信仰の日々を過ごして参りましょう。最後にお祈りをいたします。

神様。

今日も、私たちをこの礼拝堂に招いてくださり、感謝いたします。聖書が語る通り、私たちはあまりにも儂く、力無く、草に等しい存在です。しかし、そんな私たちのことを、あなたは特別に愛し、生きる意味と目的を与えて、今日もこうして「ここに来い」と呼んでくださいました。その呼び掛けこそ、私たちの揺るぎない存在価値だと知って、自信をもって今日から始まる1週間も歩んでゆくことができますように。自分には何も無いと思いつくのではなく、あなたの御心に適う価値高い一人として、隣人を愛し、御言葉を宣べ伝えることができますように。どうかお守り、お導きください。